

拠点地区の課題

- ・高学年での英語の難しさによる意欲の低下
- ・話すこと・書くことに苦手意識
- ・話す(発信する)児童が固定化しがち

- ・「間違っはいけない」という意識が高い
- ・やりとりを自然にできるように
- ・練習したことが積み重なるように
- ・「振り返り」を学びを実感できるものに

★英語を使うことが楽しいと感じ、積極的に発言し合い高い意欲をもった児童・生徒を、小3～中3まで一貫した学習の中で育てていく。

小中連携を通じた具体的取組の内容

※令和元年度を踏まえた2年度の取組み

第1回 授業づくり研修会

- ・小学校外国語指導員、小・中学校教員(各校1名)が参加
- ・意見交換や中学校専科よりアドバイス等
- ・今年度の活動に関する説明等

紙面開催

中学校 フリー参観

- ・中学校の英語科授業を自由に参観できる1週間を設定
- ・授業を観ての感想と課題や疑問等を考える

第2回 授業づくり研修会

- ・授業の悩み相談や教材等の共有
- ・フリー参観時に見えてきた、小中連携の課題の確認

第3回 授業づくり研修会

- ・「指導と評価の一体化」に関する研修
- ・評価材を例示し、評価の基準の共有
- ・「CAN-DOリスト」の検討

小学校 フリー参観

- ・小学校英語 専科教員の授業を2日間で設定
- ・授業を観ての感想と課題や疑問等を考える

公開授業研究会

11月16日(月)

- 屋代小学校 5年 山田 瑞基 教諭
 - 講演 講師:太田 洋 副学長 (東京家政大学)
- 『小中英語教育における授業改善のポイント』

『高島町CAN-DOリスト』の作成

成果

『定期的な『授業づくり研修会』』

- ・授業での悩みや疑問等を共有できた。
- ・中学校英語科教員からのアドバイスで日々の指導に活かすことができた。
- ・本町は6つの小学校が1つの中学校に進学するため、指導の仕方や内容等すり合わせができた。

『高島町 Can Do リスト』の作成

- ・6年間(小3～中3)の各学年段階で身につける力が明確になった。
- ・「小学校では、中学校につなげるためには、ここまで育てる」「中学校では、小学校でつけた力をどう伸ばしていくのか」、指導に活かせるようになった。

『フリー参観』『公開授業研究会』

- ・(小)どんな姿を目指して指導していくのかイメージをもてた。
- ・異校種それぞれの授業での取り組み、頑張りを感じることができ、日々の教材研究等への活力になった。
- ・目指す授業像が明確になった。

その他(ALT・外国語指導員の活用等)

- ・中学1年生の英語への苦手意識が年々減ってきている。
- ・外国語指導員とのTTで、授業づくりを学び指導力向上につながっている。
- ・ALTと積極的に関わる児童が増えてきている。

今後の課題・方向性

○担任の指導力向上

- ・授業構成の仕方や内容を共有(6つの小学校)
- ・外国語指導員との打ち合わせを充実
- ・フリー授業参観を継続、すべての小学校で
- ・中学校教員の出前授業。担任はT2として指導

○『高島町 CAN-DOリスト』の活用と到達度の評価

- ・年度末の到達度をどのように評価していくのか検討

○姉妹都市シングルトン(オーストラリア)との交流

- ・小学校での交流を検討(今年度は、中学校においてZoomを利用しオンラインで交流を行った。)

○GTECの導入と継続

- ・中学校において表現力に課題があり、中学校2年生での受験を継続、小学校6年生での導入を目指したい。

第5学年 1組 英語科学習指導案

令和2年11月16日(月)

指導者 HRT 山田 瑞基(T1)

JTE 鈴木 裕美(T2)

1 単元名「Unit7 Welcome to Japan. 好きな四季や文化、行事を紹介し合おう」

2 単元の目標

自分の思いを伝えたり、相手のことをよく知ったりするために、好きな季節や文化、行事などについて、具体的な情報を聞き取ったり、伝え合ったりすることができる。また、アルファベットの活字体の大文字・小文字を書くことができる。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉 四季や文化、行事等についての言い方や理由の尋ね方、答え方を理解している。 〈技能〉 四季や文化、行事等について聞き取る技能を身に付けている。	相手のことをよく知るために、四季や文化、行事等について、具体的な情報を聞き取っている。	相手のことをよく知るために、四季や文化、行事等について、具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと【やり取り】	〈知識〉 四季や文化、行事等についての言い方や理由の尋ね方、答え方を理解している。 〈技能〉 四季や文化、行事等について、お互いの考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	自分の思いを伝えたり、相手のことをよく知ったりするために、好きな季節や文化、行事などについて、お互いの考えや気持ちなどを、伝え合っている。	自分の思いを伝えたり、相手のことをよく知ったりするために、好きな季節や文化、行事などについて、お互いの考えや気持ちなどを、伝え合おうとしている。

4 指導にあたって

(1) 単元について

本単元においては、自らが好きな季節や文化、行事について伝え合う活動を行う。四季の変化は、日本で生活をしていれば、誰もが強く感じるものである。日本は豊かな四季を持つ国であり、我々日本人は、それぞれの時期における特有の文化や行事を楽しんでいる。児童もまた、そうしたことをたくさん経験してきており、本単元の題材は、児童にとって自らの考えを表現しやすいものとなるだろう。これまでの経験を想起させながら、理由も交えてやり取りさせていきたい。

理由を伝えるためには、その季節にはどのような行事があるのか、その季節に何ができるのか、どのようなことをするのかなど、様々な内容を考える必要がある。理由の言い方を考える中で、既習事項である can【～できる】を想起したり、新出表現である We have【～という行事がある】と

いった表現に出会ったりしていく。児童は、理由を伝えるためには、どのような表現を用いればよいか必然的に考えていくのである。そうした中で、外国語を用いる際の思考力や判断力を養わせていきたい。また、コミュニケーションにおいては、相手の発言に対して反応したり、その理由を尋ねたりするなど、双方向のやり取りが必須である。ただ相手の話を聞いただけで終わりにするのではなく、相手の考えを受け止め、反応し、さらに会話を続けていく。やり取りの中で反応や質問を受けることで、相手の知りたい情報や自らの伝え方の良かった点などに気付くことができ、自らの表現がよかったのかどうか、さらにはよりよく伝えるためにはどうすればよいか思考することができるのではないだろうか。

こうしたことをふまえ、本單元においては、児童ひとりひとりが自らの考えを意欲的に表現しようとする生きた言語活動を展開していきたい。

(2) 児童について (男子17名 女子19名 計36名)

本学級の児童は、第3学年から外国語活動を経験してきている。今年度からは、週2回、担任と日本人講師とで授業を行い、さらには定期的に、ネイティブのALTも授業に参加している。毎時間必ずティームティーチングで授業が行われており、児童は、様々な教師と関わり合う中で、多様な英語に触れてきている。

ほとんどの児童は、意欲的に外国語の授業に取り組んでいる。男子・女子問わず発言に積極的であり、楽しくチャンツを歌ったり、やり取りをしたりする児童が多い。これまでの単元においても、英語でのやり取りを楽しむ姿が見られた。一方で、small talk や英語によるやり取りの中で、相手の発話に対して反応をしないと即興性を求められるような言語活動には、まだまだ不慣れな現状にある。自信がなく、日本語でのやりとりになってしまったり、意味が分からず黙り込んでしまったりする児童もいる。相手の発話に対する反応や質問が豊かではなく、一方的なやり取りで終わってしまったり、返答を聞いて終わりになってしまったりすることも多い。そこで“Why?”, ” Really?”, ” I see.” といった言語材料を用いて、相手の話に対してどのように反応するか考えさせる指導を繰り返してきた。しかしながら、まだまだできていない現状にある。

単元を進めていくにあたり、最終的なゴールの活動を、「高畠町の四季のすばらしさや行事を、まだまだ高畠町に詳しくない外国人に伝える」こととした。児童はこれまでに、様々な授業において、高畠町のことについて学習してきている。総合的な学習の時間において、食農活動に取り組んだ際には、意欲的に高畠町の名産や有機農業について調べる姿が見られた。国語科の授業において、俳句の創作に取り組んだ際には、季語を集め、身の回りの景色や行事について意欲的に表現する姿が見られた。このように、児童は高畠町を愛し、様々な行事を楽しんできている。身近な高畠町について誰かに伝えるという明確な目的意識を持つことで、「聞きたい」「伝えたい」といった気持ちが高まり、よりよく伝えるためにはどう表現すればいいのか、意欲的に考えていくことができるだろう。こうしたことをふまえ、自らが伝えたい本当の考えをやり取りし合える言語活動を展開していきたい。

5 単元の指導と評価の計画

「聞くこと」「話すこと [やり取り]」に焦点をおいた単元の指導と評価の計画 (全8時間)

時	◆目標 ○【】活動 記録に残す評価場面	評 価			
		知 技	思 考 表	態 度	◎評価基準<評価方法>
1	◆日本の四季や文化についてのやり取りのおおよその内容を理解することができる。				
	○small talk:好きな季節 【Word link】季節の言い方を知る。 【Let's try①】ポインティングゲーム 【Let's chant】①Why do you like winter? 【Starting out】 ・絵を見ながら、どのような内容か予想する。 ・音声を聞きながら、教科書の□の中に番号を記入する。 ・教師とやり取りしながら答えを確かめる。 ○振り返り：本時を文章で振り返る。 基本文：What season do you like?				本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
2	◆日本の遊びや年中行事について、やり取りのおおよその内容を理解することができる。				
	○small talk:好きな行事 【Word link】動作の言い方を知る。 【Let's try①】ポインティングゲーム 【Let's chant】②What do you do on New Year's Day? 【Let's watch and think】 ・写真や映像を見ながら、何についての話題か予想する。 ・音声や映像を聞きながら、教科書に答えを記入する。 ・教師とやり取りしながら、答えを確かめる。 ○振り返り：本時を文章で振り返る。 基本文：Why do you like winter?				本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
3	◆日本の年中行事について、ペアでクイズを出し合うことができる。				
	○small talk:好きな季節とその理由 【Word link】様子の言い方を知る。 【Let's try①】ポインティングゲーム 【Let's chant】①Why do you like winter? ②What do you do on New Year's Day? 【Let's listen①】 ・日本の古くからの遊びについての音声を聞いて、線で結ぶ。 【Let's listen②】 ・日本の年中行事についてのクイズに関する音声を聞いて、線で結ぶ。				本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。

	<p>【Let's try②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の行事について、クイズを出し合う。 <p>○振り返り：本時を文章で振り返る。</p> <p>基本文：We have hanami in spring.</p>				
4	<p>◆好きな季節やその理由，行事でどんなことをするかを尋ね合うことができる。</p> <p>○small talk:春に楽しむこと</p> <p>【Word link】 年中行事の言い方を知る。</p> <p>【Let's chant】 ①Why do you like winter? ②What do you do on New Year's Day?</p> <p>【Let's try③】</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな季節や，その季節での行事やすること，できることを伝え合う。 <p>【Let's listen③】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の年中行事と月日に関する英語を聞いて，線で結ぶ。 <p>【Let's try④】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【Let's try③】で選んだ季節と行事について，その行事で「すること」「食べるもの」などを考え，ペアで尋ね合う。 <p>○振り返り：本時を文章で振り返る。</p> <p>基本文：What do you do on New Year's Day?</p>	聞			<p>◎日本の遊びや年中行事についてのやり取りについて，短い話の内容を聞き取っている。 〈行動観察，ワークシート記述分析〉</p>
	5	<p>◆好きな季節や行事について尋ね合う中で，日本の魅力を紹介することができる。</p> <p>○small talk:夏に楽しむこと</p> <p>【Let's chant】 ①Why do you like winter? ②What do you do on New Year's Day?</p> <p>【Word link】 様子の言い方を知る。</p> <p>【step1】 【step2】 【step3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな季節やその理由，どんな行事があるかなどを伝え合う。 友達から聞いた情報をワークシートに記入する。 <p>○振り返り：本時を文章で振り返り，基本的な表現をワークシートに書き写す。</p> <p>基本文：What season do you like?</p>		や	や
6	<p>◆高島町における好きな季節やその理由，行事でどんなことをするかを尋ね合うことができる。</p> <p>○small talk:秋に楽しむこと</p> <p>【Let's chant】 ①Why do you like winter? ②What do you do on New Year's Day?</p>	聞	聞		

	<p>【Let's listen③をアレンジした活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高島町の行事や文化に関して、指導者による英語の発話を聞き、ワークシートに記入する。 <p>【step3 をアレンジした活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高島町の魅力やその季節ならではの行事を話し合う。 ・マッピングを活用しながら、たくさんのアイデアを出し、交流する。 ・高島町の紹介カードを書く。 <p>○振り返り：本時を文章で振り返り、基本的な表現をワークシートに書き写す。</p> <p>基本文：Why do you like winter?</p>			<p>◎日本の遊びや年中行事についてのやり取りについて、短い話の内容を聞き取っている。 〈行動観察、ワークシート記述分析〉</p>
7 本 時	<p>◆好きな季節や行事について尋ね合う中で、高島の魅力を伝え合うことができる。</p> <p>○small talk:冬に楽しむこと 【Word link】様子の言い方を知る。 【Let's chant】①Why do you like winter? ②What do you do on New Year's Day?</p> <p>【step3 をアレンジした活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高島町の紹介カードを見せながら、高島町の魅力を伝え合う。 <p>○振り返り：本時を文章で振り返り、基本的な表現をワークシートに書き写す。</p> <p>基本文：We have hanami in spring.</p>	や	や	<p>◎相手のことをよく知ったり自分のことを伝えたりするために、高島町の魅力について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや理由などを伝え合っている。 〈行動観察、ワークシート〉</p> <p>◎相手のことをよく知ったり自分のことを伝えたりするために、高島町の魅力について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや理由などを伝え合おうとしている。 〈行動観察、ワークシート〉</p>
8	<p>◆世界に広がる日本文化について考え、世界と日本についての理解を深めるとともに、高島町の魅力を紹介することができる。</p> <p>○small talk:世界に広まった日本の行事 【Do you know?】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界に広がる日本文化について考え、発表する。 <p>【言葉探検】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界に広がる日本語について知る。 <p>【challenge をアレンジした活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高島の魅力を ALT に伝え、紹介カードをプレゼントする。 <p>○振り返り：本時を文章で振り返り、基本的な表現をワークシートに書き写す。</p> <p>基本文：You can enjoy ~.</p>	や		<p>◎高島の魅力について、尋ねたり答えたりして、伝え合っている。 〈行動観察〉</p>

6 本時の指導

(1) 目標

好きな季節や行事について尋ね合う中で、高島の魅力を伝え合うことができる。

(2) 指導過程

過程	時間	学習活動(○主な発問△指示・予想される児童の反応)		・指導上の留意点 ◎評価【方法】
		児童の活動	T 1, T 2の動き	
導入	10分	【あいさつ】 ・日付, 天気, 曜日を答える。 【small talk】 ・冬に楽しむことについてのまともった話を聞く。	○児童とともに挨拶をする。 ○英語でやり取りする様子を見せる。	・本時の流れを掲示しておく。 ・指導者同士でやりとりし, 児童にも話題をふる。
展開	30分	【めあての確認】 【chant】 ①Why do you like winter? ②What do you do on New Year' s Day? 【step3 をアレンジした活動】 ・高島町の紹介カードを見せながら, 高島町の魅力を伝え合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 高島のみによくを伝え合おう。 </div> ○児童とともに, 発話する。 ○やり取りのデモンストレーションを行う。	・基本表現の定着のため, 元気よく発話する。 ・T 1 と T 2 で会話のデモンストレーションを行い, やり取りの目標となる姿を示す。 ◎相手のことをよく知ったり自分のことを伝えたりするために, 高島町の魅力について, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, 考えや理由などを伝え合っている。 (行動観察、ワークシート) ◎相手のことをよく知ったり自分のことを伝えたりするために, 高島町の魅力について, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, 考えや理由などを伝え合おうとしている。 (行動観察、ワークシート)
		やり取りの発話例 A : What season do you like? B : I like summer. A : Why do you like summer? B : We have Aotake-chochin festival in summer. I can see fireworks. It's nice. A : Good! B : How about you ? What season do you like?...	○児童の悩んでいる様子や, 良いやり取りを全体へ広げる。 ○活動中は, 机間巡視し, 適宜児童の活動をサポートする。	
終末	5分	【振り返り】 ・本時を振り返り, うまくいったことや, 次回頑張りたいことなどを記入する。 【基本文】 We have hanami in spring. 【あいさつ】 ・終わりのあいさつをする。	○振り返りを書くよう指示する。 ○黒板に基本文を掲示する。 ○児童とともにあいさつする。	・机間巡視し, 児童の英語の書き方をサポートしたり, 振り返りの視点を与えたりする。

(3) 評価基準

A : 相手の発話に対して反応したり, 応答したりしながら, 積極的にやりとりしている。

B : 基本的な表現を用いながら, やりとりしている。

「小中英語教育における 授業改善のポイント」

東京家政大学 太田 洋先生

ご講演資料

今日の目的

小・中学校の学びの

つながりや連携を意識した授業づくり
について考え、

英語・外国語活動の

指導力の向上

を図る。

今日の授業は、、、

- 先生と児童、児童同士ののやりとりがあります。
- 使う⇔ふりかえりの構成です。
- 小中の指導案に共通するキーワードがいくつもあります。

その前に、授業者に質問

今日の授業は、、、

T1: We have 雪灯籠祭り in winter. How about you?

S1: クリスマス

T: We have Christmas.

T1: How about you, S2?

S2:

T2: I like skiing. How about you?

S2: I like (何か言った)

足場かけの大切さ

授業づくりのポイント

1. どこに向かっている？
2. 文法のためでないですよ
ね、、、
3. ギャップはチャンス！
4. 先生の英語こそ、、、
5. 本当のやり取りを！

1. どこに向かっていている？

単元目標に向かって

- (目的) (相手) ~できる
(CAN-DO)

- 過程

形成的評価

今日の授業は、、、

- 単元ゴールに向かっていきますね
- どこまで求めればいいのか？
- 無理をしない。

例えば、（写真を見せながら） |
like Takahata. We have 祭り (in
winter). Do you....?

End productを先生が作ってみる

2. 文法のためでないですよ
ね、、、

・ 到達目標が、そのunitのターゲット
文法になっている

⇒今までに習った表現を使って、、
目場状

→思考・判断・表現
情報を整理、工夫

今日の授業は、、、

- ・ 児童が目的のために、内容を考え、表現（既習事項）を使っていますね。

Whyの後

I can play baseball.

I like Christmas presents / festival.

I see cherry blossoms / 鯉のぼり

It's beautiful.

My birthday is winter.

3 ギャップはチャンス！

思判表←今までに習ったことを使って

簡単じゃないですよね

だから

振り返る機会

またアウトプット

今日の授業は、、、

- 困っている
- 「（中間）振り返り」

「言いたけれど、言えなかったことは？」

「いいペアがあったから紹介するね」

うまいなあ、をモニターする

- 児童が目的のために、内容を考え、表現（既習事項）を使っていますね。

I can play baseball.

I like Christmas presents / festival.

I see cherry blossoms / 鯉のぼり

It's beautiful.

My birthday is winter.

中間指導で大切にしたいこと

- 指導 = 教えるだけではない
- Input
- やり取り
- 既習に戻る
 - (他の) 先生の例 → クラス全体 → 個別
 - LC, LW&L → クラス全体 → 個別
 - 既習表現でのやり取り

形成的評価がポイント

「教師の指導改善のためのポイント例」

「児童の学習改善のためのポイント例」

- ・ 文部科学省国立教育政策研究所(2020)
『「指導と評価の一体化」のための学習
評価に関する参考資料【小学校 外国
語・外国語活動】』

授業最後の振り返り

- できたことだけ・頑張ったことだけ？

+

今日初めてできたこと

できなかつたこと、悔しかったこと、**次**はやりたいこともとりあげませんか？

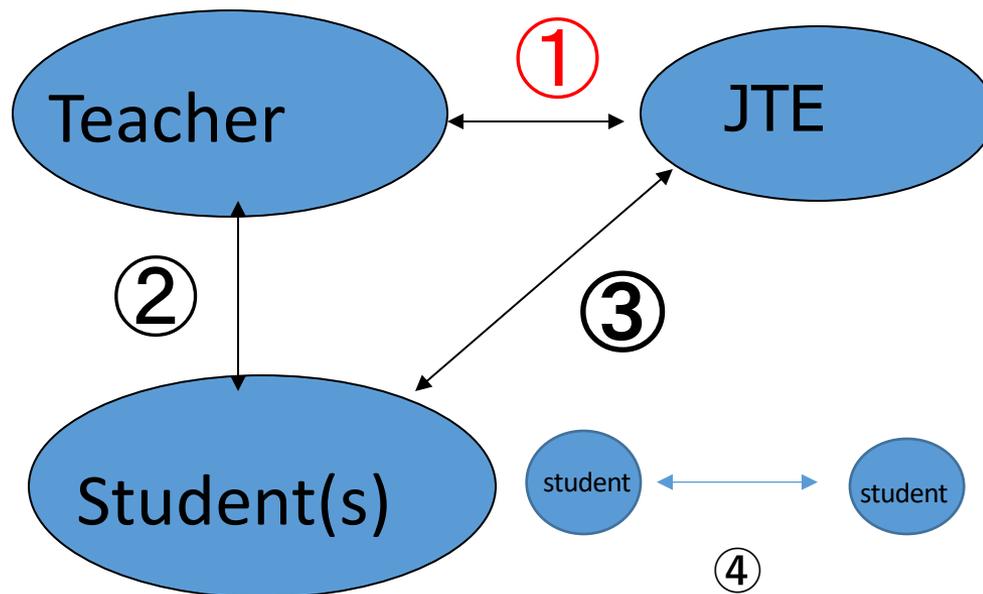
- 友達の良かったこと
- 今日できなかつたこと→次に生かしたいこと

4. 先生の英語こそ、

アウトプットを支えるのは、
インプット

Teacher talk

今日の授業は、、、やりとり



5. 本当のやりとりを！

日本語で行ってもおかしくない
やりとりはスムーズであるとは、
限らない
だから意味交渉

授業づくりのポイント

1. どこに向かっている？
2. 文法のためでないですよ
ね、、、
3. ギャップはチャンス！
4. 先生の英語こそ、、、
5. 本当のやりとりを！

今日の授業（まとめ）

「みんなが持っている表現で伝えようとしていて、、、」

自分で文を作っている

なんとかやりとりをする

間違える

先生の訂正フィードバック

使いながら身につけていく

屋代小学校英語
・ 外国語活動

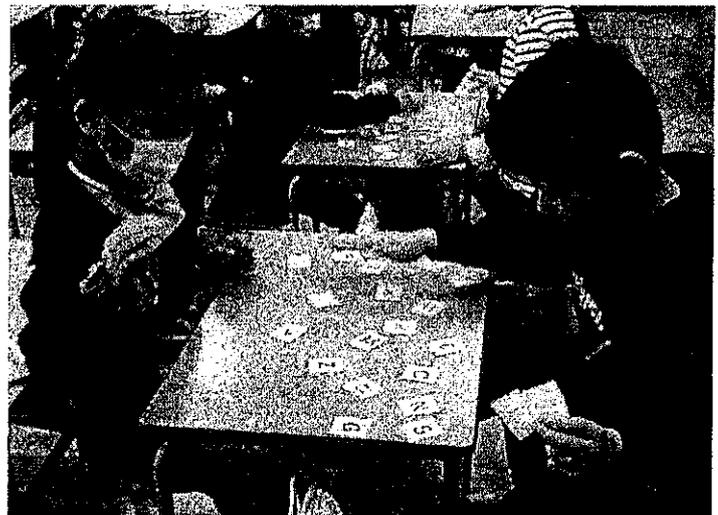
資料編



「ABC」の歌に合わせてダンス！



ポインティングゲーム



アルファベットカルタ

I 屋代小学校 英語・外国語活動 児童アンケート

1 英語の時間は楽しいですか？

	とても楽しい		楽しい		あまり楽しくない		楽しくない		合計人数
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
3年生	18	51%	17	49%	0	0%	0	0%	35
4年生	7	18%	20	51%	9	23%	3	8%	39
5年生	6	17%	19	54%	8	23%	2	6%	35
6年生	20	44%	25	56%	0	0%	0	0%	45
全体	51	33%	81	53%	17	11%	5	3%	154

2 どんなことが楽しいですか？、あるいはどんなところが楽しくないですか？

3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・マカロン先生と話ができる。・クイズやチャレンジで楽しくおぼえられるのが楽しい。 ・むずかしい英語ができるから。 ・友達と楽しく英語ができるから。 ・みんなと一緒になかよくできるから。 ・みんなと英語で交流できて楽しい。 ・友だちと交流できたり、ゲームもできたり新しい英語を勉強できるので楽しい。 ・新しく勉強することがわくわくするから。 ・自分が知らない外国語をたくさん学べたり、おぼえたりできる。
4年生	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で言うとかっこいいし、すっきりする。会話すると楽しい。 ・英語の歌が面白いし、リズムに合わせて覚えやすい。 ・みんなと考え合ったりして楽しい。 ・みんなでゲームをしたり、好きなものを聞いたりして楽しみながら英語を覚えられるところ。 ・知らない言葉を知ることができるから。 ・小文字が楽しい。 ▲何を言っているのかわからない ▲英語ばかりいっているから楽しくない。 ▲歌やゲームは楽しいけど、覚えたり、言うことはあまり楽しくない。 ▲つながっている文字がなんだかわからない。
5年生	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の歌だと、楽しく英語を覚えられる。 ・みんなと交流したり、ゲームや体を動かしたりするのが楽しい。 ・いろいろなことを英語で話せるのが楽しい。 ・英語の道案内が楽しい。 ・新しい言葉や初めて知ることができることがあるから。 ・英語をしゃべれるようになるから。 ・英語の勉強を通して、いろいろな発見ができる。 ▲ペアで話すとき、2人とも覚えていないと、なかなか進まずつまらない時がある。 ▲自分で言うのが難しく、つかえたりする。苦手から好きに変わることがあまりない。 ▲まだよくわからないときに、指名され発表するのがあまり好きでない。 ▲長い文を英語で読むのがあまり楽しくない。
6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・人と交流したり、歌で覚えたりすること。 ・全然わからなくて言えなかった言葉や発音を練習して言えるようになった時などがとても楽しい。 ・英語がどんどん身につく、覚えるのが楽しい。友だちとのやりとりも楽しい。 ・楽しんで聞くことができるので頭に入ってくる。

- ・ポインティングゲームなど笑顔でできるから楽しい。
- ・音楽にのって歌をうたうのも楽しい。
- ・友だちのことを英語で聞いたり、答えたりするのが楽しい。
- ▲テレビなど映像を見てしゃべっているのはあまり楽しくない。

<考察> Key Word 「楽しく」「みんなと交流」「わかることがうれしい」「わくわく」
 子どもたちにとってはみんなと楽しく学び、交流を通して発表したり聴き合ったりする活動が楽しいと感じる一因である。また、わからなかった英語が学び続けるうちにわかるようになった喜びを感じることができるといえる点や、学ぶことやできることでわくわくできるという点が楽しいと感じる大きな要因と言える。逆に、「あまり楽しくない」と答えた要因は「意味がわからなくて楽しくない」「自信がない中で発表する」というものであった。

これらに関しては、英語に限ったことではなく、全ての学びに共通するものである。この点に関して、私たちは再認識して他教科での学び・指導にも活かしていかなければならないと強く感じる。

本校では、昨年度まで校内研究で道徳に取り組み、対話し、深め合う授業の在り方を追求してきた。道徳の取り組みではあったが、学び合いや学び方を研究した成果が英語にも現れた、あるいは、英語での取り組みによって、何とかして思いを伝えようという気持ちや伝わったときの喜びを感得することにつながっているとも考えられる。

<ALT 鈴木先生より>

5, 6年生は歌やチャンツに抵抗がない児童が多く、声に出すことを楽しめる雰囲気があることが素晴らしいと思います。ウォーミングアップで声を出すことから授業が始まり、そのいい雰囲気で授業が進んでいくのでペアやグループでの交流でも積極的に英語を使って活動することができています。

意味がわからなくて楽しくない、英語を発音することに自信がないという児童も少なくないので、間違えても大丈夫、という安心が持てるようなサポートをしていきたいと思います。

3 大変なことやむずかしいことはありますか？

3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・英語をたくさん覚えること。 ・英語の文章を読むこと ・言われたアルファベットを指でさすのが難しい。 ・発音が難しい ・特にない。
4年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんと発音するのが難しい。特に L, M, N ・英語で書くのが難しい。 ・長い言葉を英語で言うのが難しい。 ・書いてあるのを言うのが難しい。 ・質問するとき、いろんな言い方があるから難しい。 ・どんな英語を言えばいいのか、何を言えばいいのか、わからないことがある。
5年生	<ul style="list-style-type: none"> ・発音が難しい。 ・英語の読み方や書き方が難しい。ローマ字と違ってあべこべになっていたり、1文字で書くものもあるから。ひらがなみたいに読み方が1つでない。 ・たくさん覚えるのが大変 ・英語の時間のあと、舌を使いすぎて少し疲れてしまう。 ・似ている発音や字が多いので、難しい。 ・特にない
	<ul style="list-style-type: none"> ・発音が難しい。 ・長い文章を英語で言うのが難しい。

6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・英語やローマ字で書くのが難しい。だから、ローマ字を復習したり、英語を家のテレビで見たりしてがんばっている。 ・いろいろなものの名前(単語)を覚えるのが難しい。 ・話すのはすこしできるようになったが、書きたいのに、書けなくて大変。
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<考察> Key Word 「覚える」「発音」「習慣的に使う」「文字」

聞いてその場で覚えなくてはならないという意識が強いと、難しいと感じるようである。また、多くの子どもが「発音」の難しさを挙げている。ALTの先生のような発音に憧れるとともに、その難しさを実感している。さらに、文字に対しては抵抗がある。特に、形が似ているものの判別が苦手ということもある。

これらに関しては、外国語を学ぶ上での大きな壁となるものであろう。しかし、そこにこそ小学校での外国語活動の導入の意義があるとも言えるのではないだろうか。まずは、体感し、「習うより慣れろ」ということを重視し、多くの言葉を浴びるように経験できる環境を小学校で整えていくことが肝要と考える。語弊があるかもしれないが、これまでの子どもたちの学ぶという意識(=まず覚える)を変えていくことの一つの扉として英語を活かすことも考えられるのではないか。

<ALT 鈴木先生より>

英語の発音が難しく感じている児童が多いようなので、単語やスモールトークで使用する長いセンテンスも、リズムやイントネーションを真似してみることで、まずは自信をもって声を出すことができるようにサポートしていきたいと思います。

書くことに関しては、先生方が毎回振り返りシートなどを利用して自分の名前の記入、板書の大切な表現を書き写す、という活動をされています。机間巡視しながら、書くことが苦手な児童をサポートしていきたいと思います。

4 英語の勉強をして、できるようになったことや成長したと感じることは何ですか？

3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・前までより、アルファベットを読めるようになってきた。発音もうまくなった。 ・AからZまで言えるようになった。 ・自分の名前を伝えられるようになった。 ・英語で数字を言えるようになった。 ・英語の歌が歌えるようになった。
4年生	<ul style="list-style-type: none"> ・英語をスラスラ言えるようになった。発音もよくなった。 ・教科書の問題などができるようになった。 ・苦手だったABCの歌が歌えるようになり、好きになった。 ・自分のことや相手に質問できるようになったところが成長したと思う。 ・英検4, 5級合格できた。 ・苦手だったけど、だんだん慣れてきて少し書けるようになったし、言えるようになった。
5年生	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の頃は知らなかった英語が言えるようになったとき、成長したと感じる。 ・発音が少しずつうまくなってきた。 ・簡単な会話ができるようになり、英語に自信が持てるようになった。(成長できた) ・道案内や自己紹介ができるようになった。 ・いろんな英語の言葉を知ったこと。 ・英語の文字をたくさん書けるようになった。 ・前よりも英語に興味を持ち、使うことができるようになった。 ・4年生の時よりいろいろなことを英語で言えるようになった。 ・英語を好きになった。 ・「か・く・う・な・ぎ」を使って英語で質問したり、反応したりすることができるようになった。 ・ペアで話すときにスムーズに速く英語を言えるようになったことが成長したと思う。 ・前は英語が苦手で「難しいな」とばかり思っていたけど、今は生活に生かしたり、困ってい

	<p>たら助けてあげたいと思えるようになってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ知らない単語などを覚えると、大人になってきたと思う。
6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな言葉がわかったことや何と言えばいいのかわかった。 ・前は読めなかったローマ字の小文字や大文字を勉強したことで読めるようになった。 ・声を大きくすることができた。(何回も繰り返すと) ・自分で書いた英語を友だちや先生に伝えられて教科書を見なくても覚えて話せるようになった。 ・自分の好きなものをいうことやスピーチができるようになってきた。 ・英語の先生とコミュニケーションを取ることが少しずつできるようになったと思う。 ・はじめは少ししかできなかった英語が、どんどん読めるようになった。 ・発音がよくなった。家で英語を話したら、「うまいね」とほめられ、発音がよくなってきていることに気づいた。 ・今まで知らなかった英語や単語が言えるようになった。 ・日常で使うものを英語で言えるようになった。 ・普段の生活で英語で書いてあるものも読めるようになった。 ・自分からわからない言葉を調べたり、自学で取り組んだりした。 ・難しい英語もあるけど、みんなと話し合いもできるようになったし、おぼえる力もついた。

<考察> Key Word 「～できるようになった」「もっと知りたい」「外国(人)への関心」
 ほぼゼロからの出発で英語を学んだことによって、子どもたちは多くの「～できるようになった」という思いを持つことができた。それらが自信につながり、更なる興味・関心「もっと知りたい」という意欲を生み出した。また、家族に英語の上達を知らせるなど学校にとどまらず、生活の中にも広がっている。

できなかったことができるようになる、ということは子どもにとっても大きな自信につながる。また、このことが英語以外の場面でも伝えようという意欲にもつながっていると考えられる。さらに、対象が外国の人にも広がり、ジェスチャーを使い何とか伝えようとしたり、どんなことを話しているのか興味を持って聞き取ろうとしたりというコミュニケーション力はこれから求められる力の1つと考える。

<ALT 鈴木先生より>

英語に興味関心のある児童が多い事に感動を覚えます。文字と音のつながりを理解し、ある程度推測しながら読めたりできるようになっている児童もいます。学んだことを家族に伝えたり、実生活の中で生かしていこうと考えていることは大変素晴らしいことだと思います。各ユニットでの歌やチャンツ、ペア活動を通して、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手が伝えようとする思いを聞き取ろうとするコミュニケーション力を伸ばしていけるようサポートしていきたいと思っています。

5 英語でもっとできるようになりたいことやこれからやってみたいことは何ですか？

3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな英語を覚えたい。アルファベットを覚えたい。 ・百まで言えるようになったり、国の名前を言えるようになったりしたい。 ・もっとむずかしいことをしてみたい。 ・英語を書けるようになりたい。 ・英語でたくさん会話できるようになりたい。 ・マカロン先生と英語で話したい。 ・英語をペラペラしゃべりたい。 ・英語の話を読んでみたい。 ・家にあるものなど身近なものを英語で言いたい。 ・英語の歌をもっとおぼえたい。
4年生	<ul style="list-style-type: none"> ・英語をもっと覚えたい。スラスラ話せるようになりたい。 ・アメリカ人と話をしたい。 ・英語で文を作りたい。 ・長い文章を書いたり、読んだりできるようになりたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の物語を読めるようになりたい。 ・将来は英語の通訳になりたい。 ・一つ一つ言うのではなく、つなげて言えるようになりたい。 ・何を言っているのかわかるようになりたい。
5年生	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて山形県や高島町に来た人や、会ったことがない人にいいところを伝えたり、道案内などができるようになりたい。 ・長い英語を覚えられるように挑戦したい。 ・外国人の方と英語だけで話したい。 ・生活の役に立つ言葉やもっと多くの単語を覚えていきたい。わからないことがあったら積極的に教えてあげたい。 ・英語でいろんなことを紹介する力をもっとつけたい。 ・難しい英語の発音や、日常で使えるような英語をもっと覚えたい。 ・実際に外国の人に道案内をしてみたい。 ・英語も日本語のように簡単に話せるようになりたい。 ・あまり楽しくないを「楽しい」にしたい。 ・将来の夢に英語を生かしたい。
6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・外国に行っているいろいろ話をしたい。 ・外国の人とも話したり、他の国の言葉も言えるようになりたい。 ・まだまだ言えない単語や発音があるので、できるようになりたい。 ・友だちや外国の人と上手にしゃべれるようになりたい。 ・外国の人と話して、いつかカナダやアメリカなどに行ってみたい。 ・すぐに書けるようになりたい。 ・英語で友達に質問などをして、もっと友だちのことを知りたい。 ・みんなの前で恥ずかしがらずにしっかり話せるようになりたい。 ・自分の生活（過ごし方）を英語で紹介したい。 ・コミュニケーションをしっかりととれるようになりたい。 ・英語で会話できるようになりたい。
<p><考察> Key Word 「今よりももっと」「海外」「自分から」「将来」</p> <p>子どもたちは今よりももっと話せるように、書けるようになりたいと感じている。しかも、受動的ではなく、自分から進んで英語で話しかけたいなど能動的にコミュニケーションを図ろうとする意欲が見られる。特に、ALTの先生と英語で話したいと考えている子どもが多い。さらに、英語を話せるようになって海外へ行きたい、外国の人と話したい、といったように海外への関心も高まっている。また、高学年になると将来就きたい職業で英語の必要性や有効性を考える子どもも見られる。</p> <p>これらのことから、子どもたちには英語で能動的にコミュニケーションを取りたいという意欲が見られ、学年が進むとそれを自分の将来に生かそうと考えるようにもなっている。これはキャリア教育にもつながるものであり、また、海外への関心も高まり、グローバルな視点の育成にもつながるものと考えている。</p>	
<p><ALT 鈴木先生より></p> <p>英語を使って積極的にコミュニケーションをとろう、将来英語を役立てたい、という積極的な姿勢が見られ、大変嬉しく思います。苦手意識があるけれど、それを前向きにがんばっている児童もあり、普段の授業の中でそういった児童に自信をもたせてあげられるようにしていかなければならないと感じています。</p>	

6 中学校ではもっと本格的に英語の勉強をします。
楽しみなことや不安なことなどを書いて下さい。

- <不安>
- ・発音がうまくできないこと。
 - ・授業が難しくなるのでついて行けるか不安。
 - ・小学校ではあまり書くことはないけど、中学校では書くことが多くなること。
 - ・聞きとれるか。
 - ・英語を書いたり話したりするのが増えること。
 - ・正しく読めるかと発音ができるか少し不安。
 - ・覚えられないまま次の学習に進むこと。
 - ・不安なことはあるけど、わからないときに教えてくれる人がいると安心できる。
 - ・特に不安はありません。

- <楽しみ>
- ・今より難しいことをどんどん覚えてみんなに発表すること。
 - ・小学校では習えない難しい言葉を習うこと。
 - ・交流して話すこと。
 - ・いろいろな文章や言葉を覚えられるのが楽しみ。
 - ・今の小学校と違う人たちや先生と話せるようになるのが楽しみ。
 - ・会話の仕方等を勉強できるのが楽しみ。
 - ・書きたいことを書けるようになるのが楽しみ。
 - ・世界についてもっと知ること。
 - ・リスニングのテストや話すテストが楽しみ。

<考察> Key Word 「難しくなる」「書くことが多くなる」「発音」
「難しいことを覚えられる」「いろいろな人と」

中学校での英語への不安としては、内容的に難しくなるという思いが強いようである。また、小学校でも大変なことや苦手意識のある「書くこと」と「発音」に対しても不安を持っている。楽しみなこととしては、もっと難しいことを学べる、より力をつけることができるという意欲の高まりや、今より大きい集団になり、より多くの人との交流を楽しみにしているようである。

これらから、今後、小学校で留意する点として、「書くこと」や「発音」などの苦手意識を少しでも克服させていく手立てが必要であると考えられる。また、小学校で学んだことより難しいことを学べるということに関しては、中学校の先生との連絡を取り合い、6年生が中学校の先生からの英語の授業を受けるなどして小中連携による英語教育をより推進していく必要がある。

<高畠中学校の佐藤 美里先生より>

中学校ではただ書くのではなく、今までみなさんが一生懸命取り組んできた英語の音を文字とつなげる学習をしていきます。文字の持つ音の成り立ちも繰り返し学習していきます。確かに覚えることも多いので、簡単だとは言えませんが、小学校でぼんやりと話していた英語がはつきりとした言葉として結びつくことで、しっかりと英語を理解できるようになります。また、自分の考えや思いを伝える表現の幅も増えるので、相手に伝わった時の喜びはとても大きいと思います。中学校での学習に不安な思いを持つことは自然なことですが、みなさんは小学校でたくさん英語を聞いたり、話したりしているので、とても良い“英語の耳”を持っています。是非中学校でも積極的に英語を話す姿勢を大切にしていってほしいと思います。みなさんとたくさん英語で会話をできることを楽しみにしています。

II 屋代小学校 英語・外国語活動 職員アンケート

1 英語の時間で見られる子どもの姿はどうか？

- ・間違えることにストレスを感じていない。
- ・表現（会話）を楽しんでいる。
- ・関わることを楽しんでいる。
- ・英語への興味関心が高く「〇〇を英語でなんて言うの？」と、鈴木先生に聞いている。
- ・意欲的に取り組んでいる。画像を見て楽しく英語の歌をうたっている。昨年、5年生の頃は「何を言っているのか分からない」と言って、「英語が嫌い」という児童が3～4人いて大変苦勞したが、今は、みんな英語を楽しみにしている。
- ・言葉に親しもうとたくさん発話している。
- ・始まる前から、とてもわくわくしている。（特に、ALTとの関わり）
- ・授業の後、友だち同士で学習した英語でやりとりしている。

2 英語を通して、子どもたちが力をつけたと感じる点を教えて下さい。

- ・コミュニケーション能力がついた。わからないことを周りに聞いたり、近くの子と会話したり、ALTとの関わりを楽しんだり関わる力がついたと感じる。
- ・リスニングの力がついた。5年生の時は、英語や外国語を聞き取れず何度も繰り返し聞いていたが、最近は一回でだいたい内容を聞き取ることができるようになってきた。また、英語を見て、何が書いてあるか分かる子が増えてきた。
- ・時間内で、様々な友だちと関わっている。
- ・キーセンテンスを覚えている。
- ・少しわからなくても、英語を使ってみようと前向きに話せるようになってきた。
- ・英語に慣れ親しんで、簡単な単語（数、ものの名前など）がわかるようになってきた。

3 英語の授業を進める上で大変なことや苦労は何ですか？

- ・毎週、授業の組み立て。教科書の内容が読む、書く、話すと1時間の中に盛り沢山に詰め込まれていて、子ども達の反応に合わせていると、どれかがおろそかになったり、どれかだけに集中したりしてしまう。鈴木先生（ALT）との打ち合わせをして授業をしているが、十分に生かし切れていないと感じる。評価も、基準となるものをどうするか、どこでどう見ていけばよいか難しい。
- ・指示を出すとき、うまく英語が浮かんでこない。日本語の指示になってしまう。
- ・評価が難しい
- ・自分自身の英語力が心配
- ・日本語が得意でないALTとの打ち合わせややりとりで、こちらの意図を伝えることが難しい時があること。
- ・教師自身が、英語らしい発音ができない。（子どもの発音に影響してしまうのでは、と心配）

4 英語の授業を進める上で必要な条件整備を教えてください。

- ・専科の教員 できれば日本人の先生（意思疎通がしやすい、中学校の経験がある方だと、特にありがたい）
- ・日本語も英語もできる方がいてくださると、担任とALTとの間をつないでくださったり、質問できてありがたい。
- ・タブレットが導入された時に、話す、書くの部分が簡単に練習できたり評価できたりするアプリ。
- ・電子辞書
- ・指導書セット
- ・評価用ワークテスト（単元毎）

Ⅲ 屋代小学校での英語・外国語活動の総括

Ⅰ 本校児童の意識について(アンケートから)

ⅰ 英語・外国語活動の楽しさ

交流

わかる楽しさ

わくわく

知的好奇心

全ての学び

子どもたちにとってはみんなと楽しく学び、交流を通して発表したり聴き合ったりする活動が楽しいと感じる一因である。また、わからなかった英語が学び続けるうちにわかるようになったという喜びを感じることができる点や、学ぶことやできることでわくわくできるという点が楽しいと感じる大きな要因と言える。逆に、「あまり楽しくない」と答えた要因は「意味がわからなくて楽しくない」というものであった。

このわくわくを更に深めるような環境整備も大切である。ALTからもっと多様な表現を学んだり、英語の図書などを整備したりするなど子どもたちの知的好奇心を刺激するようにしたい。

これらに関しては、英語に限ったことではなく、全ての学びに共通するものである。この点に関して、私たちは再認識して他教科での学び・指導にも活かしていかななくてはならないと強く感じる。

ⅱ 外国語活動で難しいところ

覚えなくては
発音

文字

暗記重視

↓

体験重視

聞いてその場で覚えなくてはならないという意識が強いと、難しいと感じるようである。また、多くの子どもが「発音」の難しさを挙げている。ALTや非常勤講師の先生のような発音に憧れるとともに、その難しさを実感している。発音に関してはALTの鈴木先生から真似することと、自信をもって声に出すこととのアドバイスをいただいた。さらに、文字に関しては抵抗がある。特に、形が似ているものの判別が苦手ということもある。

これらに関しては、外国語を学ぶ上での大きな壁となるものであろう。しかし、そこにこそ小学校での外国語活動の導入の意義があるとも考えられる。まずは、体感し、「習うより慣れろ」ということを重視し、多くの言葉を浴びるように経験できる環境を小学校で整えていくことが肝要と考える。語弊があるかもしれないが、これまでの子どもたちの学ぶという意識を変えていく(暗記重視から体験重視に)ことの一つの扉として英語を活かすことも考えられるのではないか。

iii 外国語活動を通して感じる自分の成長

自己肯定感	初めて外国語を学んだ子どもたちは多くの「~できるようになった」という思いを持つことができた。それはとても楽しい経験であるとともに、それらが自信につながり、更なる興味・関心「もっと知りたい」という意欲を生み出した。さらに、学んだ英語を使って実際に外国の人とコミュニケーションを持ちたいと考える児童も見られる。また、日常生活の中で英語を使おうとするなど生活の中にも広がっている。この学びはごく自然なものとも言える。子どもたちは外国語を学ぶことによって、言葉を覚える楽しさを再び体験しているのかもしれない。
生活への広がり	
自信	できなかったことができるようになる、ということは子どもにとって大きな自信につながる。また、このことが英語以外の場面でも伝えようという意欲にもつながっていると考えられる。さらに、対象が外国の人にも広がり、ジェスチャーを使い何とか伝えようとしたり、どんなことを話しているのか興味を持って聞き取ろうとしたりというコミュニケーション力はこれから求められる力の1つと考える。
コミュニケーション力	

iv もっとできるようになりたいこと

能動的	子どもたちは今よりももっと話せるように、書けるようになりたいと感じている。しかも、受動的ではなく、自分から進んで英語で話しかけたいなど能動的にコミュニケーションを図ろうとする意欲が見られる。特に、外国語活動で一番身近な存在である憧れを持つ ALT と英語で話したいと考えている子どもが多い。さらに、その対象は広がり、英語を話せるようになって海外へ行きたい、外国の人と話したいといったように海外への関心も高まっている。また、高学年になると将来就きたい職業で英語の必要性や有効性を考える子どもも見られる。
外国	
将来の職業	
英語の必要性	これらのことから、子どもたちには英語で能動的にコミュニケーションをとりたいという意欲が見られ、学年が進むとそれを自分の将来に生かそうと考えるようにもなっている。これはキャリア教育にもつながるものであり、また、海外への関心も高まり、グローバルな視点の育成にもつながるものと考えられる。

v 中学校での英語への期待や不安

交流の広がり	中学校での英語で楽しみなこととしては、もっと多くの友だちや先生と交流し、話せるようになりたいという期待やもっと難し
--------	-----------------------------------------------------------

より難しいこと	いことを学べる、より力をつけることができるという意欲の高まりを見ることが出来る。不安としては、内容的に難しくなるということが意識として強いようである。また、小学校でも大変なことや苦手意識のある「書くこと」と「発音」に対しても不安を持っている。
ライティング 発音	
苦手意識の克服	これらから、今後小学校で留意する点として、「書くこと」や「発音」などの苦手意識を少しでも克服させていく手立てが必要であると考え。また、小学校で学んだことを活かすといった点やより難しいことを学べるということに関しては、中学校の先生との連絡を取り合い、中学校の先生による英語の授業などにつなげるなどして小中連携による英語教育をより推進していく必要がある。
小中連携	高島町では、1つの中学校に6つの小学校の児童が入学するということを考えると、小・中学校との縦の連携と共に、6つの小学校間での横の連携も大切にしていける必要があると考え。「高島町 CAN-DO リスト」などもその手立ての1つと考えられる。 (巻末に参考資料として「酒田市CAN-DO リスト」掲載)
CAN-DO リスト	

II 外国語活動への本校教職員の取り組みについて

i 外国語活動で見られる児童の様子

表情
身振り手振り

子どもたちは外国語の時間を楽しみにしている。理由は、児童のアンケートで挙げたので再出は避けるが、活動の楽しさから興味を持って取り組んでいるということが指導者から挙げられている。また、日本語と違い、不自由な英語での会話を表情や身振り手振りで補って思いを伝えようとしている姿が見られるという意見があった。更に、何度も繰り返すことで理解しようと努力しているという面も見られる。このような姿は英語だからこそ見られるものとも言える。日頃の様子を見ると、不自由のない日本語では必ず伝わる、言えば通じるという思いが強く、味気ないコミュニケーションになっている面も感じられる。

ii 外国語活動を通してつけた力

積極的なコミュニケーション

前述 i とも関わるが、子どもたちは何とか思いを伝えようと積極的にコミュニケーションを図るようになってきた。恥ずかしがらずに英語を発するようになってきていることも本校の児童にとっては大きな成長と言える。英語を学習して間もないので個人間

外国

でそれほど大きな差が見られないことも、積極的に話し合おうとする一因とも考えられる。また、言語としての英語に限らず、外国の人や文化などへの興味の高まりが見られるようになってきたことも大きな変容と言える。子どもからのアンケートにもあるが、外国の人と話したり、外国に行ったりしたいなど海外に目が向いたということも本校の児童にとっては大切な見方である。

iii 外国語活動を進める上での苦勞

教材研究

一番の苦勞は何と言っても授業の準備である。慣れない教科であり、教材研究に時間がかかる。本校の場合、県の指定を受け非常勤講師の先生から補助も頂いているが、それでも十分には手が回らないのが現状である。特に、今年度は、評価の難しさを感じている。また、ALTや非常勤講師との打ち合わせの時間の確保が難しい。勤務時間も限られており、なかなか担任とゆっくり話し合う時間が取れない。学校として時間の確保の余地がないか、検討が必要である。また、できるだけ多くの場面で英語に触れさせるという点から、積極的に Classroom English を活用していくことの必要性を感じているがなかなか駆使できないのが現状である。

打ち合わせの時間

Classroom English

iv 更なる条件整備

人的環境

日頃の指導で悩むのが指示を出す際の英語が出てこないということである。この点についてはわからない単語でも、身振り手振りでもすることが大切であると考え、実践している。ただ、本校の場合、非常勤講師の先生が細かいニュアンスを子どもたちに伝えてくれるので大変助かっている。ALT と担任の間を埋めてくれる貴重な存在である。今後もこのような人的支援が整うと大変有り難い。

ハード面

ハード面では、今後、導入されるタブレットの活用について研修を深めたり、ソフトウェアの面で充実を図る必要がある。

III 外国語活動と他の活動との関わり・発展

i 子どもたちの成長から

外国語活動を通して、英会話への興味・関心・意欲の高まりが見られてことは明らかである。また、「～ができるようになった。」という自信を持つことができた面も大きく、自己肯定感にもつな

自己肯定感

がっている。さらに、指導者からの見とりでは、様々な方法で自分の考えを伝えようとする姿が見られるとあった。外国語活動で得た自信や意欲、コミュニケーションの楽しさを他教科や他領域など様々な活動に広げていくことも大切な視点になってくる。探究的な学びを進める上でコミュニケーション力は必須のものとなる。

コミュニケーション力

探究的な学び

本校では、今年度から校内研究で国語に取り組み、探究的な学びを追求しているが、それを支えるものとして、国語や外国語活動などでコミュニケーション力の育成を図ることも大切であると考える。

ii 国語(母語)との関わり

思考の武器

以前、ある研究会で山形大学教職大学院の三浦登志一教授より、グローバル人材の育成や外国語の関わりからの国語の役割は「思考するときの武器」という話を伺った。我々日本人は殆どの場合、思考は母語である日本語(国語)で行う。これは外国語での会話でも同じであり、どんな中身をどう伝えるか思考する際は母語を用いる。その意味で、外国語でのコミュニケーションを図るにしても、思考の中心である国語の指導は大変重要である。しっかりと考え、自分の思いを持ち、それを相手にわかりやすく伝える。そのような子どもの育成を目指していかなければならない。

iii グローバル人材の育成

「グローバル人材」の概念として次の3つの要素が挙げられる。

◇要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

◇要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、
責任感・使命感

◇要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティ
ティー (「グローバル人材育成推進会議中間まとめ」より)

本校としてのアプローチを以下にまとめる。

◇要素Ⅰに関して

校内研究

本校では今年度から校内研究で国語科に取り組んでいる。そこで目指すものは「読む力」と「学び合い」である。これは要素Ⅰに直接関わるものである。ただ、課題としてコミュニケーション力の育成が挙げられる。この点について、前述の子どもの成長で

挙げたとおり、外国語活動に期待するものは大きいと言える。

◇要素Ⅱに関して

本校の児童は真面目な子が多く、言われたことはきちんとする責任感の強い子が多い。その一方で、主体性・積極性、チャレンジ精神についてはまだまだ成長の余地がある。外国語活動の成果から言えることとしては、「外国に行って話をしたい」「外国の人に道案内をしたい」「英語を将来の職業に活かしたい」など今までよりも積極的な面が見られるようになってきている。より一層の成長を期するためにも、学校の教育活動全般のみならず、家庭や地域とも連携して育てていく必要があると考える。

連携

◇要素Ⅲに関して

異文化に対する理解を深めることは外国語活動の目標でもあり、ALTとの触れ合いの中で子どもたちが感得しているものでもある。さらに、今回の5年生の授業でもあったように、自分の生まれ育った地域を紹介するということも大切である。ここではこれまで学んだ屋代の素晴らしさを伝える、といった活動とも関わっている。また、日本人としてのアイデンティティーを育てるためには各教科・道徳などをふくむ全ての教育活動・環境（学校に限らず）が大切になる。

全ての活動

iv キャリア教育との関わり

キャリア教育の必要性が叫ばれて久しい。キャリア教育とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」（中央教育審議会答申：23年1月31日）となっている。子どもたちが自分らしく生きるために、「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、実現させていく姿を目指すものである。その意味で、本校児童が将来就きたい職業に通訳を挙げていることや、「将来の夢に英語を生かしたい」と考えていることは大変興味深い。また、外国人の方と不自由なく話せるように英語を学びたいと考えていることなどは、今後の生涯学習につながるものであろう。特に、本校のように海外の人との接点が少ない地域で、このような思いを持つ児童がいるということをお大切にしたい。今後、キャリア教育を推進するにあたって、選択肢や方向性の1つとして考えていきたい。

学び続ける
働き続ける

		小学校				中学校		
		3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生
聞くこと		日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気づき、自分のことや身の回りの物を表す語句や、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現でのやり取りを理解しようとする。	日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気づき、自分のことや身の回りの物を表す語句や、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現でのやり取りを理解しようとする。	日常生活や身近なことについてのやり取りを聞いて、おおよその内容を理解できる。	世界の国や人々とのつながりの中に生きる自分たちについて伝え合うやり取りを聞いて、内容を理解することができる。	①短く初歩的な表現をくり返し用いたCMや、友だちの自己紹介などを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。 ②初歩的な語彙や表現を用いた交通情報や、友だちの一日の生活についてのスピーチを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。 ③初歩的な語彙や表現で話されるラジオDJや、友達の思い出の行事についてのスピーチを聞いて、主な内容を聞きとることができる。	①空港や機内での放送や、友達の将来の夢についてのスピーチなどを聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。 ②天気予報やニュース、友達の町紹介についてのスピーチなどを聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。 ③映画ヒットチャートのランキングや、友達の好きなこと、ものについてのスピーチなどを聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。	①興味のある国や日本の文化の紹介、修学旅行や中学校生活の思い出についての友達のスピーチを聞いて、概要や要点を正確に聞き取ることができる。 ②議論での話者の主張についてまとまりのあるスピーチの概要や情報を正確に聞き取ることができる。
	発表	相手に伝わるように工夫しながら、自分のことや身の回りの物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝えようとする。	相手に配慮しながら、自分のことや身の回りの物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝えようとする。	日常生活や身近なことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	世界の国や人々とのつながりの中に生きる自分たちについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	①相手のことについてたずねたり、自分について答えたりすることができる。 ②自分の一日の生活や友達や家族、身の回りの物について伝え合うことができる。 ③自分や友達の行事などについて伝え合うことができる。	①相手や場面に応じて丁寧な依頼や日常のやりとりができる。 ②自分の町など身近な話題について、意見とその理由を含めてやり取りすることができる。 ③自分の好みを伝えながら買い物のやり取りをすることができる。	①食事や道案内、電話での会話など場面に応じたやり取りをすることができる。 ②ある作品や自分・友達の体験したことについて、また道具の使い方やあることを知っているかどうかなどについて尋ねたり、答えたりすることができる。 ③聞いたり読んだりしたことに、賛成や反対の意見を述べるることができる。
話すこと	やりとり	相手に伝わるように工夫しながら、自分のことや身の回りの物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。	相手に配慮しながら、自分のことや身の回りの物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。	日常生活や身近なことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうことができる。	世界の国や人々とのつながりの中に生きる自分たちについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。	①初歩的な語彙や表現を用いて3文以上の英文で発表することができる。 ②自己紹介をすることができる。 ③一日の生活について発表したり、友達の発表を聞いて質問しあったりすることができる。 ④自分の思い出について発表したり、友達の発表を聞いて質問しあったりすることができる。	①春休みの出来事について一般動詞の過去形を用いて発表することができる。 ②自分の予定や将来の夢について話すことができる。 ③自分の町を紹介するスピーチをすることができる。 ④自分の好きなこと、ものについて何かと比較などしながら話すことができる。	①興味のある国や日本の文化の紹介、修学旅行や中学校生活の思い出について発表することができる。 ②中学校生活での思い出や今後の自分の抱負について、今まで習った表現を用いて発表することができる。
読むこと				アルファベットの活字体の大文字・小文字の名前を読むことができる。	世界の国や人々とのつながりの中に生きる自分たちについて、簡単な語句や基本的な表現で書かれた英文を読んで、内容を理解することができる。	①初歩的な語彙や表現で書かれた英文を読み、人の好きなことや習慣的にしていることを読みとることができる。 ②初歩的な語彙や表現で書かれた友達などの紹介文や、学校紹介文を読み、その情報を読みとることができる。 ③初歩的な語彙や表現で書かれた物語を読み、場面の変化や登場人物の心情などを読みとることができる。	①メールやレポート、スピーチの原稿などを読みその主な内容と書き手の意向を読み取ることができる。 ②物語や説明文を読み、その主な内容を読み取ったり、気持ちを込めて音読したりすることができる。 ③物語を読みその内容を理解したり、製品などの紹介文を読み、紹介されているものの特徴や利点などを読み取ったりすることができる。	①物語や説明文などを読み、その要点や大意を正確に読み取ることができる。 ②場面や一番伝えたいことに気を付けながら、音読をすることができる。 ③日本の文化や世界の文化、実在の人物の伝記などを読み、内容や情報を整理しながら正確に読み取ることができる。
書くこと				アルファベットの活字体の大文字・小文字を書くことができる。	世界の国や人々とのつながりの中に生きる自分たちについて伝える文を、例文を参考にして書くことができる。	①自分の名前や好きなことを紹介する文を、3文以上で書くことができる。 ②自分の一日の生活でしていることを、3文以上で書くことができる。 ③行事や旅の思い出について、したことや感想を絵はがきに3文以上で書くことができる。	①自分の予定や将来の夢を、理由をあげて4文以上で書くことができる。 ②自分の町紹介などの身近な話題について、その特徴などを説明する分を4文以上で書くことができる。 ③自分の好きなこと、ものについて何かと比較しながら4文以上で書くことができる。	①日本文化や修学旅行について、今まで習った表現を用いて5文以上の英文で書くことができる。 ②ファンレターや意見文を、今まで習った表現を用いて5文以上の英文で書くことができる。 ②自分の学校生活と今後の抱負について、文章の構成を意識しながら、5文以上の英文で書くことができる。